

スーパーマーケット景気動向調査

2015年2月調査結果（1月実績）
（2月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3カ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3カ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

2月調査（1月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通し判断共に2ヵ月連続の上昇みせる

1月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から+0.5の46.8、見通し判断前月から+1.0の43.5と共に2ヵ月連続の回復をみせた。

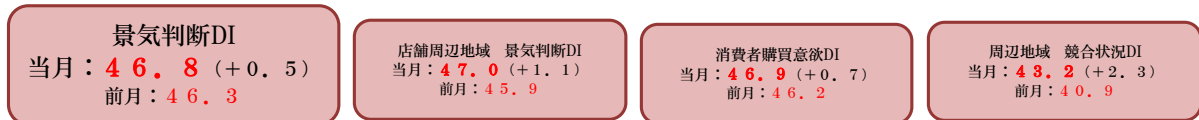
経営動向調査結果では、売上高DIが-1.1（前月比+2.8）、収益DIは2.0（前月比+2.4）となり共に前月から上昇をみせた。前年より土曜日が一回多いことに加え、生鮮品仕入原価DI、食品仕入原価DI共に2桁プラスで高止まりする一方で、販売価格DIも2桁プラスを維持し、客単価DIは7.4（前年比-2.0）とやや減少したものの、来客数DIが-10.6（前月比+4.7）と回復したことで売上高や収益の上昇にむすびついたとみられる。

カテゴリー動向結果では、畜産DIが14.8（前月比-2.0）と引き続き好調であり、水産DIも6.8（前月比+2.1）とやや好調を維持している。青果DIはやや不調ではあるものの、前月からは大幅なプラスとなっている。惣菜DIは12.3とプラスを維持し、日配DIもマイナス幅を縮小して-1.0となった。一般食品DIと非食品DIは共に二桁のマイナスで不調となった。

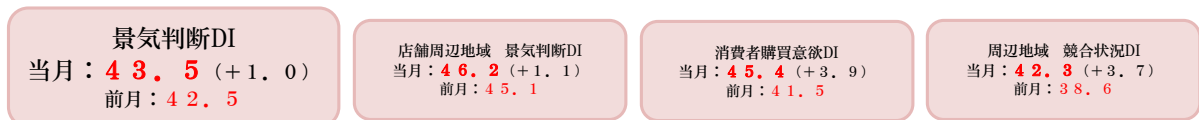
税率引上げ以降、景気判断は弱含みで推移を続けていたが、12月から2ヵ月連続の回復を見せた。すべての景況感DIが前月に比べプラスとなっているが、特にこれまで低迷していた見通し判断DIに反発がみられたのは今後に向けて好材料といえる。

景況感調査

現状判断

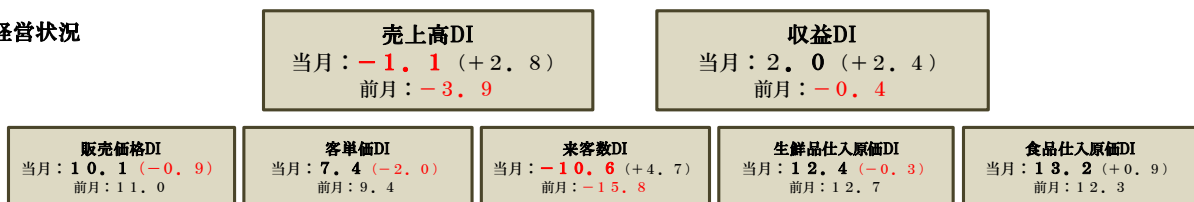


見通し判断

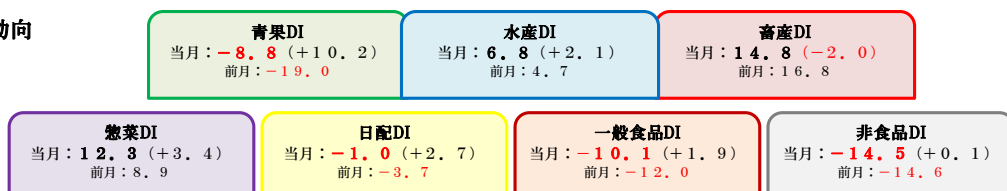


経営動向調査

経営状況



カテゴリー動向

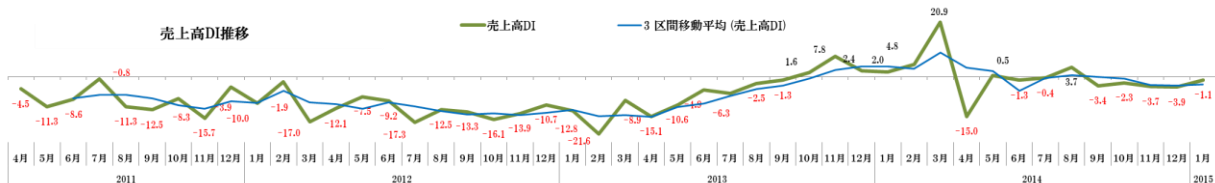
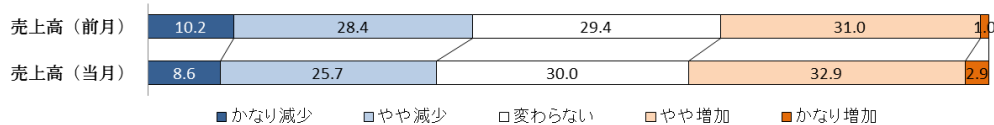


○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

2月調査（1月実績）結果詳細 1. 経営動向調査

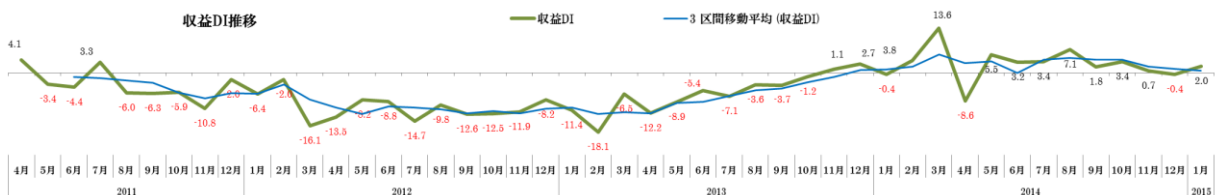
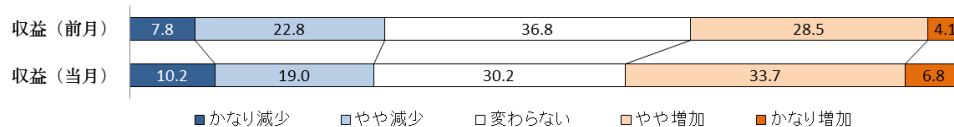
1. 売上高DI

5ヵ月連続のマイナスもマイナス幅を縮小し底堅く推移



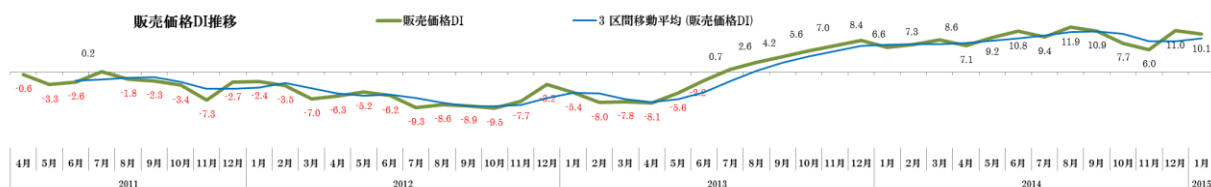
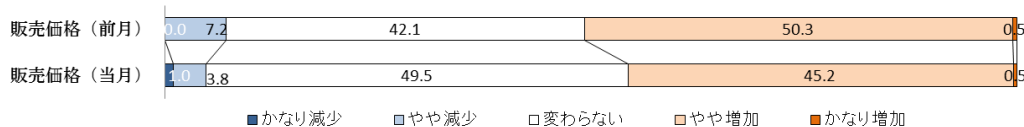
2. 収益DI

12月はマイナスも1月は小幅ながらプラスとなり底堅く推移



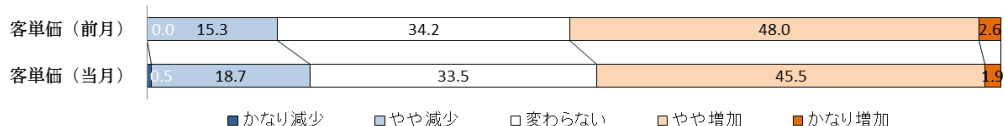
3. 販売価格DI

2ヵ月連続の二桁プラスとなり高水準で推移



4. 客単価DI

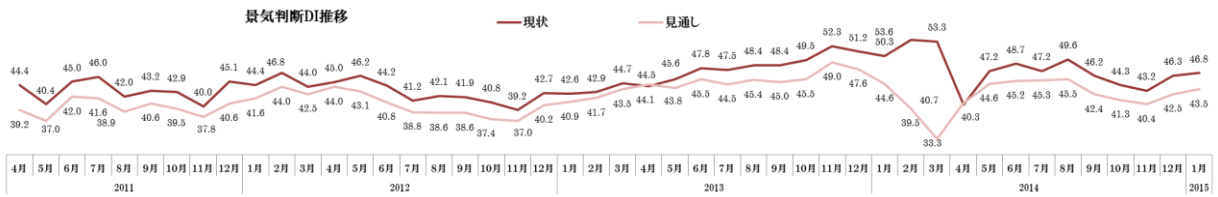
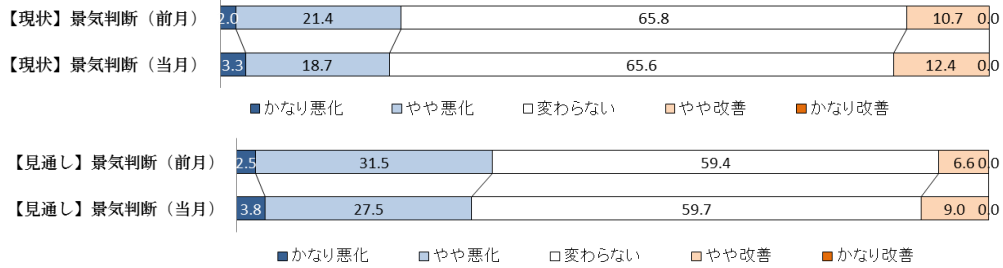
1月はプラス幅縮小も9ヵ月連続でプラスを維持し、12月は再び上昇



2. 景況感調査

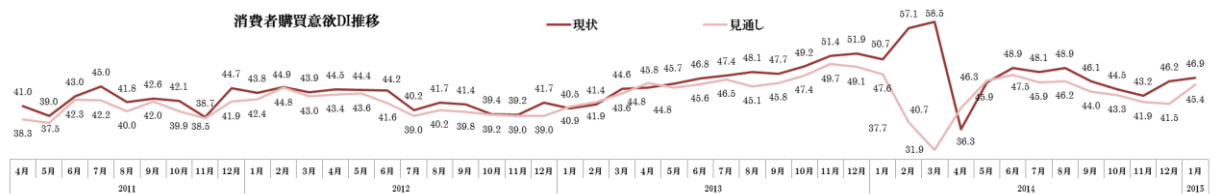
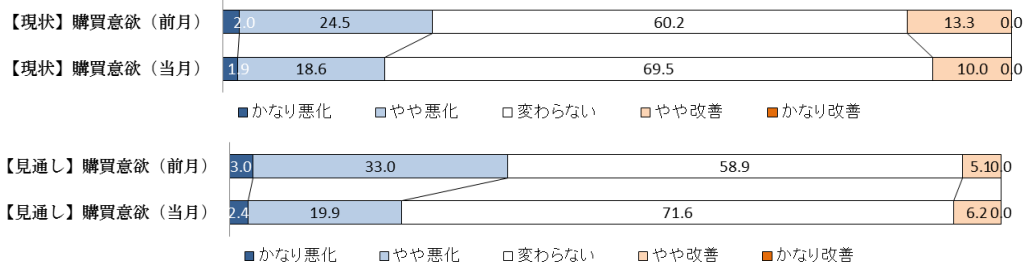
1. 中核店舗景気判断 DI

小幅ながら2ヵ月連続で回復し、やや持ち直しの動きを見せる



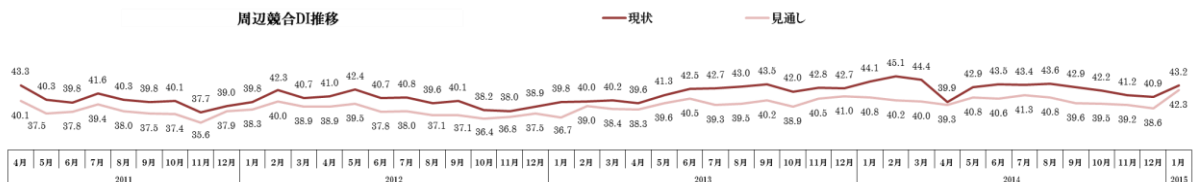
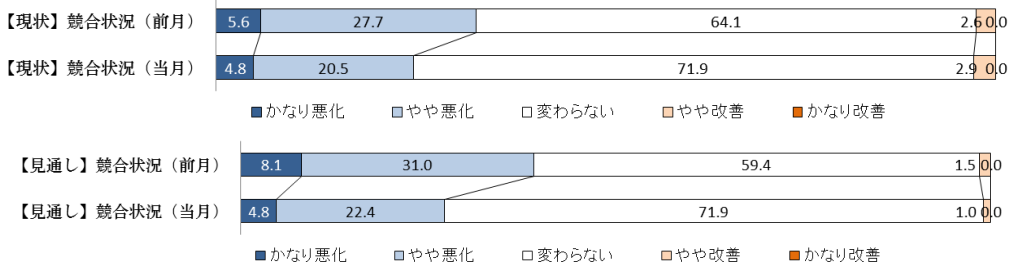
2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は2ヵ月連続で回復、6月以降下落の続いていた見通し判断も回復をみせる



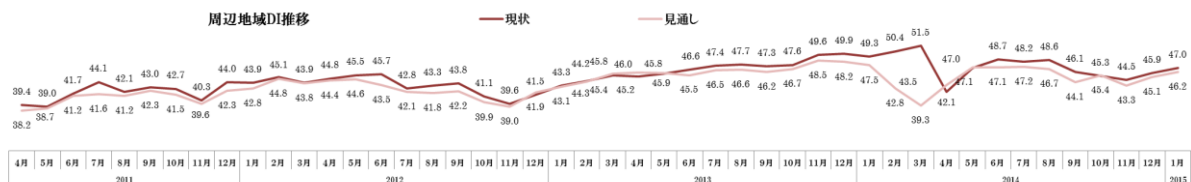
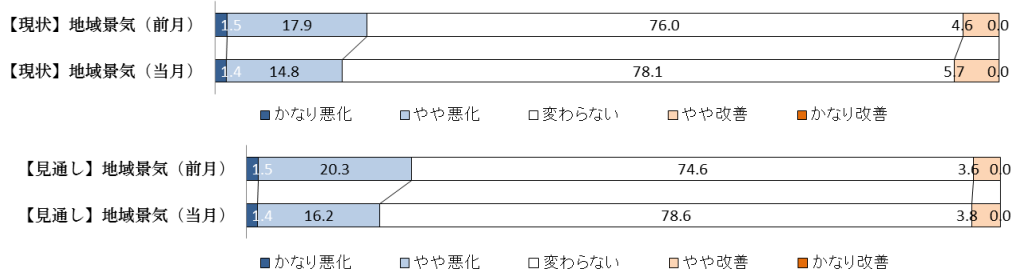
3. 中核店舗周辺競合状況 DI

大きな改善はみられないが現状判断・見通し判断共にやや回復



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

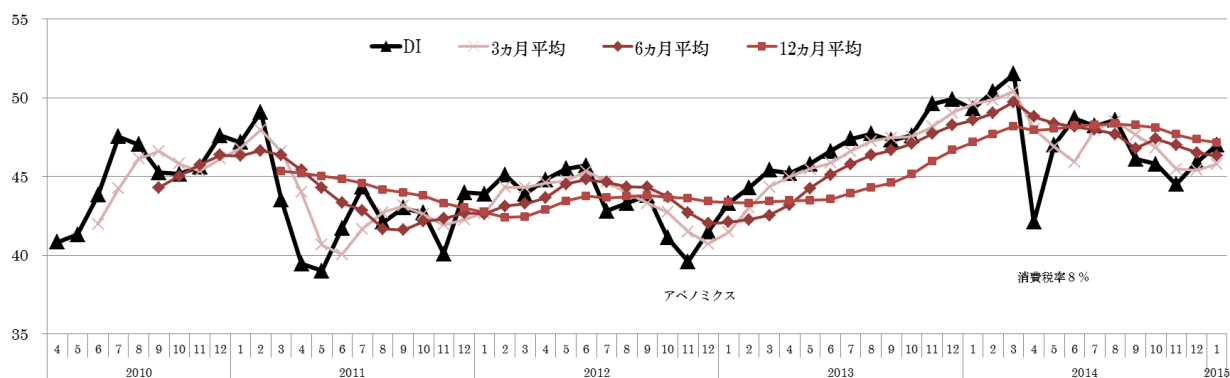
現状判断、見通し判断とも2ヵ月連続の回復を見せる



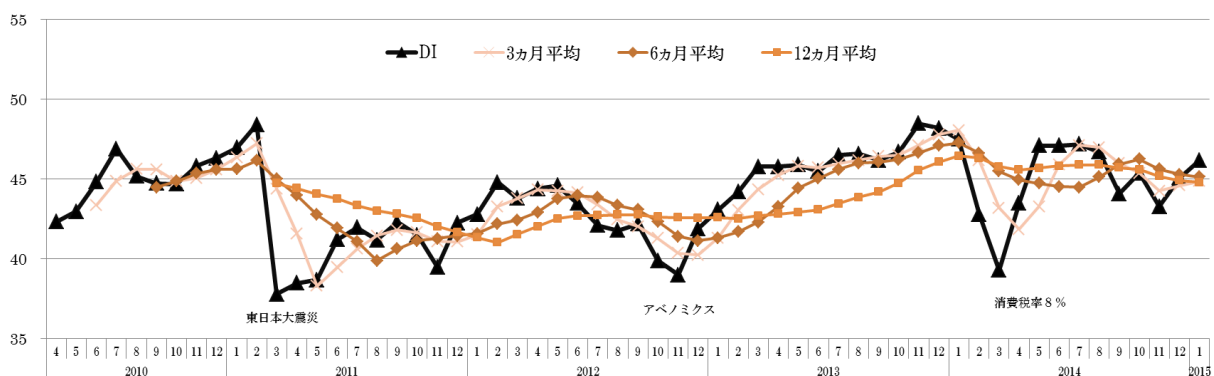
長期傾向（2010年4月～）

2012年11月以降上昇を続けた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月消費税率引き上げの影響を受け下落した。その後5月に回復をみせるも、6月～8月まで横ばい推移、9月～11月では下落が続き、下降トレンドが顕著となっていた。12月、1月と2ヵ月連続で上昇をみせたことでトレンド転換に明るい兆しがみえてきている。特に見通し判断では単月DIが各移動平均線を大きく上回る上昇をみせている。ただ、2ヵ月連続の回復により3ヵ月平均線はプラスに転換したものの、他の平均線は依然としてマイナス方向への推移が続いており、トレンド転換を確認するためにはもう少し時間が必要となる。

現状判断（中長期傾向）



見通し判断（中長期傾向）



3. カテゴリー別動向

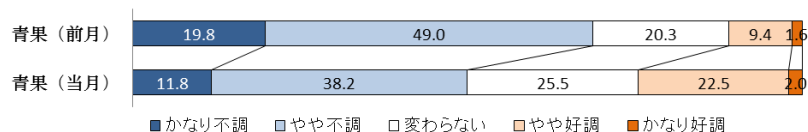
カテゴリー別動向 DI による好不調判断

かなり好調：20 以上・好調：10～20・やや好調：0～10

かなり不調：-20 以下・不調：-20～-10・やや不調：-10～0

1. 青果 DI：-8.8（やや不調）

青果相場は高安まちまちの状況であり、全体的に好不調についての判断がわかる結果となった。葉物野菜は単価が下落している影響で不調の声が多かった。果物についてはりんごと輸入果物が好調とのコメントが多く、みかんと苺については好不調まちまちな結果となった。



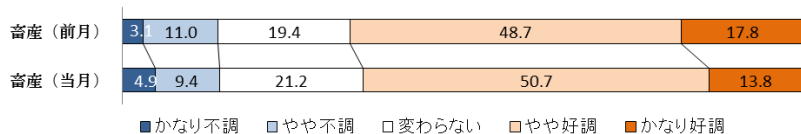
2. 水産 DI：6.9（やや好調）

水揚げ不足などによる相場高を追い風に単価の上昇による好調と競合による不振を指摘するコメントにわかる結果となった。なかでも刺身類や切り身などは好調を指摘する声が多かった。



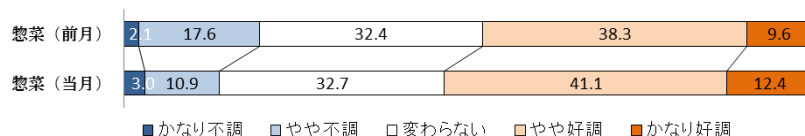
3. 畜産 DI：14.8（好調）

相場高による牛肉の好調に加え、アメリカでのストにより輸入豚が高騰した影響で国産豚が好調とのコメントが多かった。牛肉では高額品を含む和牛が好調であるとの声が多かった。鶏インフルエンザの発生についての影響は軽微との声が多い。



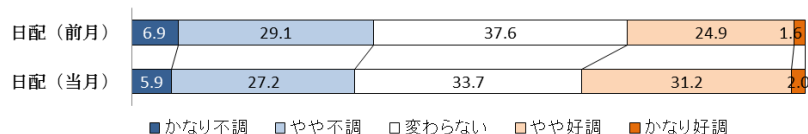
4. 惣菜 DI：12.3（やや好調）

新規開発商品の投入をはじめ、各種イベントや企画により好調であったとのコメントが多かった。なかでも寿司や揚物を好調にあげる声が多い。



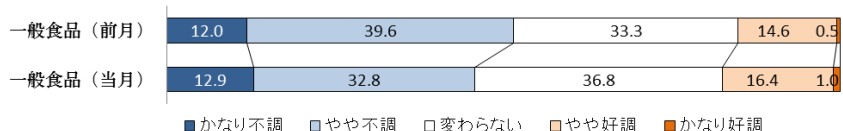
5. 日配DI：-1.0（やや不調）

乳製品（バター、マーガリン、チーズ）やヨーグルトを中心とする洋日配が好調である一方で、和日配の不振を指摘するコメントがみられた。卵は相場安のため不振であるとの声が多かった。前年に薬物混入の影響を受けた冷凍食品は回復をみせた。



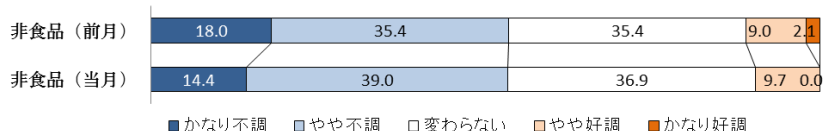
6. 一般食品：-10.1（不調）

引き続き米の相場下落の影響を大きく受けている一方で、酒類や菓子カテゴリーやシリアルなどが好調であるとの声が多かった。商品への値上げが続くなかでも、競合による価格競争の厳しさをあげるコメントが多い。



7. 非食品DI：-14.5（不調）

ドラッグストアと価格競争により、全体的に回復傾向がみえない。インフルエンザ対策関連商品の動きがよかったとのコメントがみられた。



2015年1月キーワードTOP3

1. 土曜日が一日多い
2. 生鮮品好調
3. 客数減少

スーパーマーケット景気動向調査 2月調査結果

- 1月実績速報版集計 210社
- 12月実績確報版集計 197社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp